world's **children**

No.35

Indonesia Japan Nepal Sri Lanka Sudan



Save the Children

Message
ご挨拶

はじめまして

2004年度第2回総会で社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン（SCJ）の理事長に選任された上野昌也です。

SCJは、「質的にも量的にも強い団体を目指す」という方針のもと、新たな理事の皆さんとともに、さらなる飛躍を目指します。どうぞよろしくお願いいたします。

さて、昨年12月26日に起きたスマトラ沖地震津波による未曾有の災害では、皆さまから多くのご支援をいただき、セーブ・ザ・チルドレンとしても迅速な対応をとることができました。改めて感謝申し上げるとともに、寄付を通して皆さまのお気持ちを預からせていただいているという責任を強く感じております。本誌特集を通じて、私どもの活動の一端を知っていただき、また皆さまからいただいたご支援の成果を感じていただければ幸いです。

私どもの願いは一つ「世界中の子どもたちの笑顔」です。セーブ・ザ・チルドレン世界連盟との強い絆のもと、今後は、全世界を視野に入れた活動を全力で展開してまいります。

私どもの活動は、皆さまからのご支援によって支えられています。皆様のご理解と変わらぬご支援をいただけますよう、今後ともよろしくお願い申し上げます。

社団法人 セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン

理事長



Contents No.35 Issue

1 ご挨拶

2-4 特集 スマトラ沖地震・インド洋津波

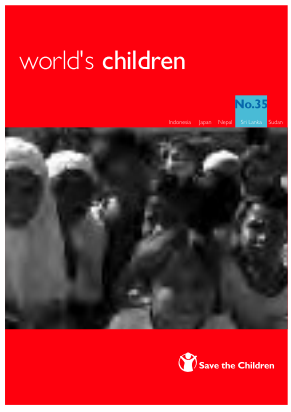
5 レポート：スーダン

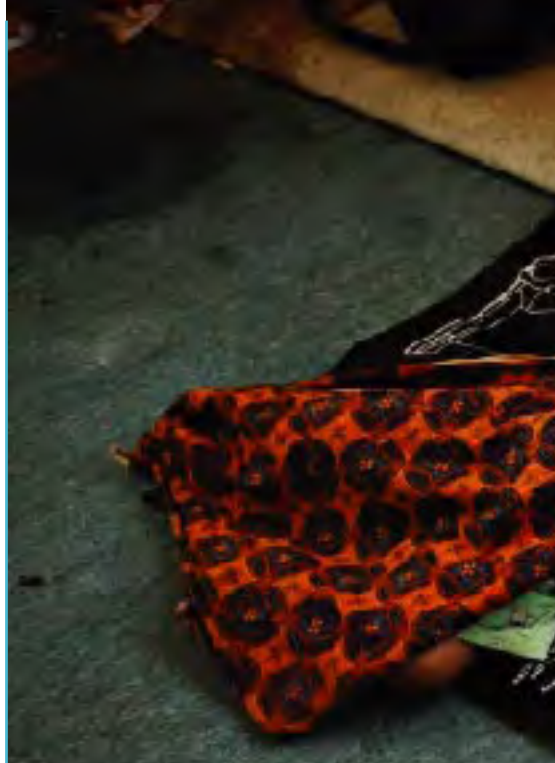
6 収支概要

7 コラム：ネパール

8 パートナーの紹介/Speaking Out

9 インフォメーション：寄付のお願い





Special Report

Sum

特集
スマトラ沖地震・インド洋津波
「再会、再生、再建」支援
子どもたちの力強い成長を願って

2004年12月26日。スマトラ沖で起きたマグニチュード9.0の地震とそれに続く津波は、インド洋沿岸の国々に未曾有の被害をもたらしました。死者・行方不明者28万人以上、被災者500万人以上にのぼり、その内の約半数が子どもたちです。

セーブ・ザ・チルドレン（SC）では、すさまじい災害に襲われた子どもたちに対する、食糧、水、医薬品、シェルターなどの緊急物資援助を地震直後から実施。被災地のほとんどですでに数十年にわたる活動を展開していたため、災害が起きた時、迅速かつ効果的に援助活動を開始することができました。と同時に、SCは子ども支援NGOのリーダー的存在として、子どもの保護、親と離れ離れになった子どもの再会支援、学校の早急な再開に、災害直後から取り組んでいます。今回の災害に対して世界中から大変なご支援をいただいています。SCは、緊急援助段階を終えて、今後は長期的視野に立つ地域の復興支援に焦点を当てた活動を行っていきます。皆様のご支援はSCの世界的ネットワークを活かして、被災地の子どもとその家族に確実に届けられ、これからの数年間にわたる復興支援に役立てられます。



natra

©Photo:Karin Beate Nosterud



スマトラの支援活動の概要

■配給

被災した子どもたちを家族や地域へ戻し、災害を生き延びていけるように、
(1)緊急の食料
(2)保健医療ケア
(3)清潔な水と衛生
(4)収容施設や食料以外の物資
(5)スクールキットや制服
の配布を行い、20万人以上の子どもとその家族を支援しました。

■チャイルド・プロテクション (子どもの保護)

SCは、災害直後から親と離ればなれになってしまった子どもたちの再会支援プログラムを展開し、インドネシアやスリランカで2,000人以上の子どもを登録しました。また、子どもたちが安心して遊べる場所や避難民キャンプに学校用テントを設置してきました。引き続きトラウマケアや病気や略奪から子どもを守るプロジェクトを行っています。

■教育

SCでは、すべての児童を学校に復帰させるという目的のもと、長期的支援を行っていきます。学校の修復支援、実際に学校が再開されるまでの教育支援を行います。

■保健衛生

SCの保健チームが、5歳以下の子どもと妊娠もしくは授乳中の母親に対し暖かい食事と補助食を提供しています。予防接種の実施、衛生キットの配布、保健センター修復や衛生知識に関するトレーニングを行い、子どもとその母親のヘルスケアサービスを支援しています。

■生活再建支援

被災地での支援活動は、緊急援助段階から災害後の復興支援へと移行しています。SCでは、被災者自らによる再建を目指す『Cash-For Work』(CFW)プログラムを、各被災地で地元機関と協力して被災者のニーズにあった内容で行っています。

SCは物資の提供等の緊急支援から、復興支援までの5年間にわたる長期プログラムで、被害の甚大なインドネシア、スリランカ、インドでは大規模な支援を、比較的被害の小さかったタイ、モルディブでは現地のニーズにあった適切な支援を展開しています。今後も地域社会、国際社会に積極的に働きかけながら、継続して精力的に活動していきます。

特集　スマトラ沖地震・インド洋津波

Sri Lanka

スリランカ



津波の被害が大きかったスリランカでは、死者の数が3万人を超え、80万人が家を失いました。津波発生から3日後に、2名の日本人職員が現地入り。ニーズを調査し、支援を開始しました。

■目立つ女性の被災



私たちが活動しているのはスリランカの主要都市コロンボから南へ約160キロ下った南部州の小さな町マータラです。ここでは、人口約7万6,000人のうち、およそ半数が津波の被害を受けたとされています。特に地域によっては、女性の被災者が圧倒的に多いところもあります。これは、津波の起きたのが日曜日の朝で、「ポラ」と呼ばれる朝市に出かけていて、そのまま大波に呑み込まれてしまった人が多いからです。このため被災孤児の中には、いまだに「お母さんは日曜市に出かけたまま帰ってこない」と考えている子どもがいるということです。



子どもたちの心にも深い傷が残った

■親戚か地域共同体の元に

スリランカでは、1,300人を超える子どもたちが被災孤児になったと伝えられています。これに対する政府の児童保護政策は、被災孤児を施設へ収容する方針に向きがちです。しかしSCとしては、子どもたちは親戚に引き取られるか、またそれが不可能な場合には、以前から暮らしていた地域共同体のメンバーに引き取られて暮らしていくのが最適と考え、政府など関係者に対して、精神的にもストレスのたまりやすい施設への孤児の収容を行わないように働きかけています。



津波が全てをさらってしまった被災地

■生計への支援も重要

被災から子どもたちを根本的に救うためには、子どもたちを取り巻く大人や環境の問題も重要です。津波は産業面でも大きな打撃をもたらしましたが、特にスリランカの重要産業のひとつである漁業は深刻な被害を受けました。沿岸部に住む零細な漁民はボートや魚網を失い、漁に出て生計を稼ぐことができなくなりました。今後の先行きが見えない状況に苛立ちとあきらめを抱いている人も多くいます。大人も子どもも、早く元の生活に戻れることが緊急の課題であり、そのためSCは被災者の生計復興活動も始めています。

マータラでは地元の女性商工会議所と協同で被災女性に対して足踏みミシンを提供し、裁縫業によって家計の収入を稼げるように支援を行っています。社会的に弱い立場にいる女性などに対して積極的に支援を行っていくことも子どもを支援することにつながります。

■緊急援助から長期の支援に

被災地では今、緊急支援をしてきた多くのNGOが撤退を始め、緊急援助から息の長い、長期的な支援の段階に入っています。災害前からスリランカで30年にわたり支援活動を続けてきたSCは、今後も被災地に残り復興に取り組んでいきます。多くの方からSCに寄せられた義援金は、長い時間がかかる被災者の生活復興や子どもたちを取り巻く環境の向上に役立てられていきます。この悲しい経験を契機に、多くの人がスリランカという小さな国により多くの関心を抱き、より弱い立場にいる人たちの生活が向上していくことが私たちの願いです。それが結果として、家族や地域、学校で子どもたちを取り巻く環境がよりよいものになっていくのだと信じています。　（スリランカ・マータラ事務所　武田和代）





復興はまさにこれから。長期的な生活支援も重要に。

Indonesia



インドネシア・アチェ

**スマトラ沖地震から3ヶ月後、インドネシア政府は「救援段階」の終結を宣言、
今後は地域復興に支援の重点は移りました。でも、まだ家族を探し続けている人々がいます。**



©Photo:J.Carrier

■家族を探して

もしあなたが、自分の愛する家族に何が起き、どうなっているのか判らないとしたら、たとえ一縷の望みしかなくても、希望を捨て諦めることができるでしょうか？現在アチェの人々に起きていることが、まさにそのことなのです。津波が家にやってきて家族を奪われた人々、津波が家族の仕事場や買い物している場所にやってきてその家族が行方不明になってしまった人々、皆、何が起きたかもわからず、いまだに家族を探しているのです。

セーブ・ザ・チルドレン（SC）が力を入れている支援活動に、家族と離ればなれになった子どもたちの家族との再会支援があります。アチェの事務所には、家族と離ればなれになったすべての子どもの写真と名前のリストが貼り出されています。子どもを捜している親がやってきて、リストや写真を熱心に見ていきます。彼らは、新しく増えた名前に自分の子どもが入っているかもしれないという奇跡を信じて、数週間たつとまたやってきます。残念ながら、多くの場合聞きたがっているニュースを手に入れることなく、事務所を去りますが、それでも彼らが希望を捨てることはありません。ただ、日々ほんの少しずつ光が遠のいていくのです。

それでも、奇跡が起きた家族もいるのです。親の側も子どもの側も、自分は世界に1人取り残され、二度と家族と会うことはないのだと思っていた親子を結びつけることが、SCのスタッフの努力により果たされています。例えば、このリナ(5歳)とお父さんの再会の写真は、悲劇に打ちのめされた人々に、そして昼も夜もなく働いてきたSCのスタッフにとって、すべての希望の光なのです。

現在、SCでは1,900人以上の子どもの登録があり、120名以上が家族との再会を果たしています。私がアチェにいた数日間でも、子どもの写真が何枚かブランクになっていて、スタッフに確認すると再会を果たした子どもたちということでした。その話をする時のスタッフの嬉しそうな目の輝きが印象的でした。



©Photo:Toby Porter

家族と離ればなれになった子どもたちの写真リスト
写真の上に見える"DICARI"という言葉は、インドネシア語で行方不明"を意味する単語

■「物」だけの援助ではなく

今後、アチェでSCは復興支援を長期にわたり展開していきます。完全な復興までの道はまだまだ遠いけれど、アチェの人々は、この悲劇をチャンスに変えようとしています。今までの悲劇続きだった地域の命運を、大災害を乗り越え、世界の注目と支援によって、明るい未来につなげることを期待しています。

今回実際アチェに入り、支援者の方々から熱い思いでご協力いただいた多くのご寄付が、SCの情熱的なスタッフたちが精力的に行っている現地の支援活動に効果的に活かされ、アチェの人々の希望に沿っていることを伝えられることを誇りに思います。

現場の声を代表して、ご協力くださった皆さまにお礼を申し上げるとともに、今後ともSCの活動にご支援くださるようお願い申し上げます。

（セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン広報担当　葉山久美子）



子どもたちに囲まれる日本人スタッフ

Sudan

スーダン



ダルフール地方に難民160万人。子どもたちは様々な恐怖に直面しています：
貧困、紛争による暴力、家族との離別、強制的に兵士にされてしまうこと、飢餓。。。

アフリカ大陸の北東部に位置するアフリカ最大の国土を持つスーダンは、1956年の独立後、平和を享受できた期間はわずか11年しかないほど内戦つづきです。

■内戦の影響は人口の4割に及ぶ

スーダンでは1956年の独立以来、1972年から1983年の停戦期間を除き、計30年以上にわたり内戦が続いていて、特にここ20年はイスラム色を強めた北部を拠点とする軍事独裁政権（アラブ系）とスーダン南部のアフリカ系（非アラブ系）との間の紛争が継続していました。2003年に和平協定が締結されましたが、ダルフール地域ではその後和平交渉が決裂、ダルフール紛争が激化しました。

この紛争により2005年1月までにダルフール全人口の約40%に当たる240万人の人々が影響を受けています。ダルフールの難民160万人という数字は1999年のコソボ難民や2001年のアフガニスタン国内避難民の約100万人を上回っています。

■セーブ・ザ・チルドレンの対応

スーダン政府から混乱状態が続き不安定なダルフールへ立ち入ることが許可された2004年3月以来、セーブ・ザ・チルドレン（SC）は緊急支援の中心になり継続的に大規模な緊急人道支援や保護プログラムを実施しています（表参照）。SCJも合同で水と教育の分野での支援を行うべく、ジャパン・プラットフォームの支援を受けて、2005年4月より西ダルフールで活動を開始しました。

■水と教育の問題が切実

［水の分野］

西ダルフール州全体で人口の61%に安全で清潔な水が供給されていないのが現状です。スーダンでは、悪い水質に起因する下痢で死亡する子どもが多く、そのせいもあって乳幼児死亡率が約17%と高くなっています。また、死に至らないまでも、悪質な水源による子どもたちの健康状態の悪化が非常に懸念されています。また、水汲み場まで2時間もかけて行かなければならないことが往々にしてあり、その途中で女性や子どもたちが襲撃されることが多々あります。

具体的には、電動および手動ポンプ式井戸をのべ50ヶ所設置します。また、井戸を設置して終わりではなく、有効に使ってもらうために、技術者を育てるための井戸管理研修、井戸の使い方と衛生の重要性を伝える衛生教育を実施します。

［教育の分野］

今回の支援対象人口で教育が受けられていない割合は79%に上ります。多くの学校が紛争の影響で修復が必要になっています。教育の早期再開を支援することで、紛争の影響を受けている子どもたちを保護する一面もあり、キャンプでは母親たちが学校を何とかして欲しいとの意見が多数あり、教育の早期の再開が熱望されています。

支援の内容としては、井戸を設置するキャンプや周辺の村で、10校舎を修復し、仮校舎5校を設置します。それに伴い、机・椅子などの家具と教材の配布を行います。

以上の支援活動により、支援地域の人口およそ120,000人に水と教育がいきわたります。

（海外事業課長　宮下礼）

セーブ・ザ・チルドレンの支援がダルフールの子どもたちに届いています

項　目	内　容	受益者
食糧配給	スーダンにおける一般食糧:小麦、豆、オイル、など	・2005年1月　26のキャンプにて276,000人以上 ・今後の予定　317,000人(48,000トン)
栄養プログラム	コミュニティーベースの治療的栄養プログラムセンター4ヶ所運営	5歳以下の軽度および重度の栄養失調の子ども、妊婦、授乳中の母親
保　健	・20のプライマリーヘルスケア運営 ・ワクチンキャンペーンの支援・監督 ・保健・衛生に関するトレーニング	・201,000人以上が利用　（5歳未満の子どもと出産適齢期の女性すべてに予防接種を行うことを目的） ・70,000人以上の子どもにワクチン実施
水と衛生	・共用仮設トイレ3,000個設置 ・41の井戸と手動ポンプ設置	75万L/日の清潔な水の供給 →53,000人以上
保　護	セーブ・ザ・チルドレンが行ったグループ・フォーカス・ディスカッションの結果、攻撃を受けることに対する不安は今でも人々の中では大きい事が判明 →すべてのプログラムに保護の要素を入れ込む	・7ヵ所のキャンプにおける女性センター設置(UNHCR)支援 ・西ダルフール全域で7ヵ所の女性センター運営
子どもの保護	セーブ・ザ・チルドレンは平和や安全の記憶を失ってしまった子どもたちを対象に体系的なグループアクティビティーを行っている唯一の団体。	12のキャンプに21のチャイルド・センター設置 →77,000人以上の子どもが登録
食糧以外の物資	シェルター(ビニールシート)とノンフードアイテムの配給	46,000世帯以上

*セーブ・ザ・チルドレンは、上記以外にも様々なプログラムを行って、地域の復興に努めています。
*2005年1月時点での支援内容です。

Financial Report

皆さまのご支援に感謝します。
社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン収支概要

2004年 4月1日～12月31日

皆さまのご支援により、当期収入は2億4,245万3,000円となりました。
ありがとうございました。収入と支出の概要をご報告します。

（社）セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン収支概要

2004年4月1日～12月31日

収入の部	（単位:千円）
1.寄付金収入	129,565
無指定寄付（募金箱寄付、特定スポンサー寄付を含む）	83,344
指定寄付	40,826
緊急援助寄付（イラン地震等）	2,416
啓蒙事業寄付	2,978
2.補助金・助成金収入	64,451
政府系補助金	34,397
民間助成金	30,053
3.会費収入	12,705
4.その他の収入	6,700
当期経常収入	213,423
特定預金取崩収入	29,030
当期収入合計	242,453
前年度繰越金	65,846
収入合計	308,299

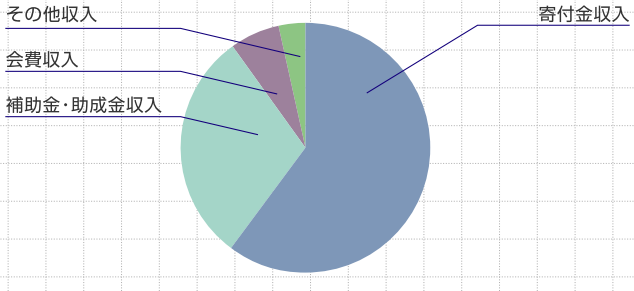
支出の部	（単位:千円）
1.事業費	200,533
海外援助費	121,470
緊急援助事業費	27,560
国内啓蒙費等	51,502
2.管理費	37,186
3.固定資産取得支出	4,084
当期経常支出	241,804
特定預金支出	1,523
当期支出合計	243,327
当期収支差額	-874
次期繰越収支差額	64,972
支出合計	308,299

注1）詳細はセーブ・ザ・チルドレンホームページにあるアニュアルレポートをご覧ください。

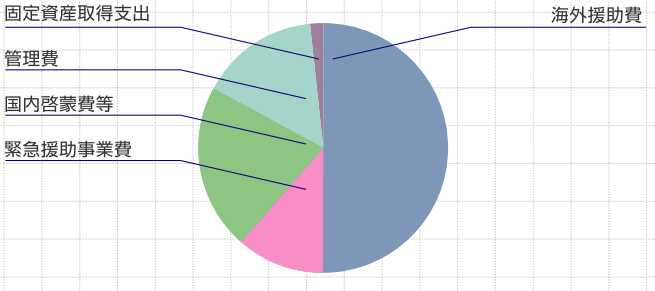
注2）今年度は、決算期を変更したため、9ヶ月の変則決算となっております。

注3）切捨てで表示していますので、端数の関係で合計と一致しない場合があります。

経常収入内訳



経常支出内訳



ご存知ですか？

セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンでは、世界連盟とともに、より多くの子どもたちを支援するため、支援地域を拡大していきます。
今年は新たに、エチオピア、カンボジア、グァテマラ、コートジヴォワール、スーダンなどの子どもたちを応援していきます。
支援国では、日本の何十分の一のお金で多くの子どもたちを援助することができます:

例えば、1,000円で
日　　本　:昼食1回分
エチオピア:出産時の衛生用品キット(石鹸、剃刀、ビニールシートなど)を1セット購入することができます。
カンボジア:一家族が養鶏や野菜栽培など家庭の収入源を増やすためのローンを賄うことができます。
ス ー ダ ン:生活に欠かせない蚊帳を購入することができます。

皆さまのご支援によって、世界中の子どもたちに笑顔を届けられます

Column

Nepal

混迷深めるネパールで重要性を増す民間援助
［ネパール政変とその後］

アスマン（ネパールのパートナーNGO）の現地ネパール人スタッフが放った一言:
「もともと貧しい村人たちにとっては、首都で政変があったところで、生活にさほどの影響が出るわけではありませんよ」

■突然のテレビ演説

「国王が10時からテレビ演説をするらしいので下の部屋で見てきます」−2月1日朝、総務担当のカマルが私にそう告げに来た。30分後に戻ってきた彼は、国王が首相を解任し自らを長とする閣僚会議が実権を握る旨宣言した、と報告した。

ネパールでは、1990年の民主化後も一向に良くならない生活に、農村若年層の多くが不満を抱いていた。そこに巧みに取り込んで勢力を拡大したのが、マオイスト（ネパール共産党毛沢東主義派）だった。2001年に王国軍が鎮圧に投入されてからは全国で治安が悪化。2002年5月の国会解散後は、治安問題のため総選挙が実施できないまま、国王が政党の意見を無視して首相を指名・解任する異常事態のなかで、王室、政党、マオイストの三者が対立する膠着状態が続いていた。



民間FMラジオ局を監視するネパール王国軍兵士
（2月2日、カトマンズ）
撮影者:Usha Titikshu
（ウシャ・ティティクシュ）

■表だった影響はないが…

今回の政変がセーブ・ザ・チルドレン・ジャパン（SCJ）の活動にも深刻な影響を及ぼすかもしれないと感じたのは、翌2日の朝刊で、国家非常事態宣言のもと憲法の主な人権条項が停止されたと知った時だった。SCJの活動は、子ども・保護者・教師など現地の様々な人々とのミーティングを通じて、子どもの権利への意識向上をはかるものが多い。「言論の自由」や「集会の自由」が停止されているなかで、果たして今までどおり活動を続けられるのだろうか。

だが政変から3ヶ月が過ぎた今、当初の私たちの心配は杞憂になりつつあるように見える。子どもや保護者たちとの会合は今までどおり何の問題もなく開催できている。

■重要な民間援助

しかし問題がないわけではない。政府による政治家や人権活動家の拘束は続いているし、報道規制も解除されていない。何よりも政府とマオイストの和平交渉進展の兆しが全く見えず、両者の戦闘はむしろ激化しているように思える。戦闘の激しい地域からは、戦火を逃れ、着の身着のままで都市に避難して来る村人たちも少なくない。報道規制で各地の詳しい状況がわからないため、私たちの知らないところで、王国軍あるいはマオイスト軍による重大な人権侵害が起こっているのではないかという不安は拭えない。国民の基本的人権を保障しない国家を支持することはできない、といった理由から、デンマークやスイスのように開発援助を凍結する国も出てきている。

ますます混迷を深めるネパールにおいて、しかし、一つだけ言えることがある。政府を通じた公的援助が制限されたりマオイストの攻撃対象となるなかで、NGOによる民間ベースの援助は、その重要性が増すことはあっても決して減ることはないということだ。私たちSCJもその一翼を担う団体として、今後もネパールの子どもたちのために活動を続けていきたい。

（ネパール事務所代表　定松栄一）



政変後、支援地で子ども達と話す定松職員

追記:4月29日、ギャネンドラ国王は国家非常事態宣言を解除する旨発表した。しかし報道や政治的集会に対する規制、政治家の拘留等の措置はその後も続いており、引き続き状況の変化を注視していきたい。

Partnership



スマトラ沖津波災害に、
たくさんのご支援ありがとうございました。

CSR(企業の社会的責任)の一環として企業が果たす社会貢献度が企業力を測る重要な指標として近年注目を集めています。
企業や学校、団体が積極的に社会への役割を担おうとするとき、セーブ・ザ・チルドレンと連携をとっていただくことで
大きな社会貢献を果たしていくことが可能になります。今回はスマトラ沖津波支援のご報告をいたします。

スマトラ沖津波支援
コーポレートパートナー様へのお礼

スマトラ沖津波支援に対しては、企業からのご寄付、店頭での募金箱の設置、マッチング、現物やサービス支給など、様々な形で多くの企業より、温かいご支援を頂きました。特にマッチングや募金箱の設置は、支援の輪が従業員の皆様やお客様まで広がるもので、社員の皆様が社会の一員として意識を高め、お客様や地域社会とのご交流やご協力が促進されるなど実り多い社会貢献活動であったのではないかと思っております。セーブ・ザ・チルドレンの支援が届いた現地の子どもたちに代わって厚くお礼申し上げます。

＜ご支援いただいた主な企業・団体＞

上野製薬株式会社
資生堂労働組合
ジョンソン・エンド・ジョンソン社会貢献委員会
タリーズコーヒージャパン株式会社
財団法人地球市民財団
日本におけるデクサ グループ
ディー・エイチ・エル・ジャパン株式会社
日本アムウェイ株式会社
ボストン・コンサルティング・グループ
万有製薬株式会社/日本エム・エス・ディ株式会社
株式会社ファミリーマート
リーバイ・ストラウス ジャパン株式会社





他多くの法人様からご支援を頂きました（敬称略）。

パートナー様の声

タリーズコーヒージャパン(株)　代表取締役　松田公太

“子どもたちの幸せを願うタリーズにとって、セーブ・ザ・チルドレンを通じて厳しい環境下での生活を余儀なくされている子どもたちへの支援活動に参加できることは大きな喜びです。今後も更なる協力が出来るよう、タリーズもより成長していきたいと考えています。”

タリーズコーヒージャパン（株）は募金箱設置及びコーヒー豆と絵本の売り上げの一部をセーブ・ザ・チルドレンに寄付してくださっています。

企業や学校などのパートナーシップに関するお問い合わせは マーケティング部/TEL:03-3516-8926まで

Speaking Out

“知って、考える”ことが第一歩!
～子どもたちのスマトラ沖地震への取り組み～



スマトラ沖地震被災地における緊急支援と平行し、国内事業“Speaking　Out～みんなで話そう～”プロジェクトでは、日本の子どもと共にスマトラ沖地震について考えるプログラムを実施しました。日本の子どもたちが、被災した子どもの立場にたつグループアクティビティに参加したり、現地の支援活動の様子を知る機会となりました。

地震大国・日本に住む子どもたちがスマトラ沖地震を自分のこととして捉える一方で、世界中の政府・国際機関・NGOが協力して活動する姿を通じて、同じ地球市民として助け合い協力することの大切さに気付くきかっけとなったのではないでしょうか。

参加した子どもたちの声:

「自分がもし被災した子どもだったらと考えたら、すごく怖くなった」
「スマトラ沖地震のことをもっと多くの人々に知ってもらいたいし、協力したい」
「普段どうでもいいと思っていた“つながり”について少し興味をもてて良かった」

Fundraising

カード決済開始
ーもっと手軽に国際貢献ー

セーブ・ザ・チルドレンへの寄付がクレジットカードでできるようになりました！もちろん、ご寄付もショッピングと同様にポイントがつきます。

■利用できるカードブランド

VISA、Master、DC、JCB、AMEX
（お手持ちのカードについているマークをご確認下さい）

■カードで寄付される方

セーブ・ザ・チルドレンのホームページからかお電話で

①インターネット

http://www.savechildren.or.jp/

②フリーダイヤル

0120-317-502（平日9:30～18:00）
（カード番号、有効期限と寄付金額をお知らせ下さい。）

＊クレジットカード決済は、一般寄付・チャイルドリンク・SCサポートともにご利用いただけます。（会費のお支払いにはご利用いただけません）

ノースウエスト・KLMに乗って、子どもたちを支援

ーあなたのマイレージをご寄付くださいー

ノースウエスト航空エアケアー・チャリティー・プログラムー

みなさまからいただいたマイレージは、支援国へのスタッフ移動に活用させていただいています。これまでイラン、ベトナム、ミャンマー、スマトラ沖、アフリカなどへの渡航に利用させていただきました。

マイレージをご寄付いただくことで、より多くの資金を子どもたちへの支援事業に活用することができます。

＊セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンは、ノースウエストのエアケアー・チャリティー・パートナーに選ばれています。

■セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンに電話で申し込む

フリーダイヤル　0120-317-502（平日9:30～18:00）

ワールドパークス会員番号と寄付マイレージをお伝え下さい。

■ノースウエスト航空「ワールドアクセス」自動応答にて申し込む

フリーダイヤル　0120-747-050（24時間対応）

「寄付を希望される団体」で、**8.セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン**をお選び下さい。なお、マイレージのご寄付は、5000マイルからとなります。

ご寄付のお願い

「子どもたちの力になりたい」あなたの気持ちと子どもたちをつなぎます

継続サポート

継続的なご支援をお願いします。

○Child Link

アジア、アフリカ、ラテンアメリカよりサポートしたい地域を選んで毎月一定額の寄付をしていただく、継続的サポートプログラムです。争いに巻きこまれたり、貧困のサイクルから抜け出せずにいる子どもたちの未来を、長期的視野にたって継続して改善していくサポートです。日本の皆様だけでなく、世界中のチャイルドリンカーが一緒になって地域の子どもたちの未来を応援していきます。（チャイルドリンクにお申込みされた方をチャイルドリンカーと呼んでいます）

参加いただいた方には、定期的に支援国の情報、代表の子どもの声、子どもたちの様子を盛り込んだレポートをお届けします。

（一口4500円/月）

○SCサポート

世界各国で実施しているセーブ・ザ・チルドレンの活動を長期的にご支援いただくプログラムです。国や地域を限定せず貧困、紛争、虐待、エイズなど様々な理由で基本的な教育、栄養、医療保健サポートが受けられない困難な状況にある子どもたちへの継続的なサポートです。

（一口1500円～/月）



いつでもいくらでもサポート

○ご寄付や募金は、随時受け付けています。

振込手数料免除の下記口座をご利用下さい。

振込先:郵便振替口座　00900-1-120760

加入者名:セーブ・ザ・チルドレン子ども基金

会員になる

○個人維持会員　年会費一口50,000円

セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンの総会に出席して、意見を反映させることができます。

○SCJ会員　年会費一口5,000円

その他、企業としてのサポートやボランティアも随時募集しています。
詳しくは、フリーダイヤルまたはFAX・メールにてお問い合わせ下さい

（フリー）0120-317-502　（平日9:30～18:00）
FAX　03-3516-8923
e-mail　info@savechildren.or.jp

税控除のご案内

セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンは、特定公益増進法人として外務省の認可を受けています。一定の要件下で控除の対象となります。申告の際には、“特定公益増進法人の証明書”と“寄付領収証”が必要になりますので、必要な方は事務局までご連絡下さい。

詳しくは資料をご請求下さい。



津波は未曾有の災害をもたらし注目を集めました。
でも、同じような困難な状況にある子どもたちが
世界にはたくさんいます。目をそらさないで下さい。
私たちの道のりはまだまだ遠いのです。

発行元
社団法人 セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン
発行日：平成17年 6月 1日
〒103-0021 東京都中央区日本橋本石町3-2-6 ストークビル 8F Phone:03.3516.8922 Fax:03.3516.8923

www.savechildren.or.jp